



～国際政治経済学部 学部団体～ ジャーナリズム指導室

国際政治経済学部の学生だけが入れる学部直属の団体。メンバーは20人強。

元朝日新聞論説委員の講師の指導の下、マスコミへの就職のみならず、今後の人生において有益な様々な技能を得ることを目指し、毎週土曜日に活動中です。

▶▶▶ ジャーナリズム指導室が重視する3つの矢

三学科・複数学年で行う

時事問題ディスカッション

氾濫した情報から、真実を見極める多角的・俯瞰的な視点！

元新聞記者の指導下で学生同士が批評し合う

テーマ作文、インタビュー作文

均一化の時代に、他人の個性を見出し、自分の個性を伸ばす！

利害ではなく、“人間”で結ばれた

友人、頼れる先輩、多業種のOB

年二回の合宿で親密になり、気軽に大学生活・留学・就職の相談ができる！

マスコミ志望の人、一足先に就活対策を始めたい人、時事問題・作文に興味がある人、4年間を有意義に過ごしたい人 におすすめ(^^)/

お問い合わせ先



@AguJournalism



journalism.agu@gmail.com



質問も受け付けています。入室希望の方は、氏名と学生番号を送ってください。

ジャーナリズム指導室

ジャーナリズム指導室は、国際政治経済学部 of 学部団体です。国際政治経済学部の学生だけが入室可能で、同学部から予算が出ています。

当指導室では、マスコミ就職だけでなく、大学生活4年間を通じて、今後の人生において必要な「知識」、「創造力」、「絆」を得ることを目標に活動しています。

時事問題、作文、スキル習得、マスコミへの就職に興味がある方に特におすすめです。

活動時間：毎週土曜日 10 時～17 時（途中参加、途中退出可能）、兼サークル可能

お問合せ先



@AguJournalism



journalism.agu@gmail.com



入室希望の方は、氏名と学生番号を送ってください。質問も受け付けています。

1、 午前の活動：時事問題を取り扱う

皆さんが入学したのは、国際政治学部でも、国際経済学部でも、国際コミュニケーション学部でもなく、国際政治経済学部です。

この学部では、学際的（複数分野にまたがった）な学習が求められています。なぜならグローバル化した現代では、様々な価値観が並存しており、その中で生きる為に多角的な視点が必要になっているからです。時事問題を学び、世界の様々な動きを把握すれば、学際的な学習が可能になり、多角的な視点を手に入れることが出来ます。

どのような時事対策を行っているか

1. 毎週のニュースを復習する「ニュース・レビュー」
2. 重要な時事問題をより深く調べる「深堀り」
3. 一つの問題について議論する「気になる記事」

📌ここがポイント

三学科・複数学年で同じ時事問題について議論することで、多角的な視点が身につく、国際社会を俯瞰的に見渡せる視野が手に入る。



2、 午後の活動：作文をみんなで批評し合う

グローバル化した現代は、様々な価値観が並存するだけでなく、政治や文化の点で均一化、同質化が進む時代ともいえます。同質化が進む社会では、他人の個性を見出し、自分の個性を伸ばしていくことが必要になります。ジャーナリズム指導室では、元朝日新聞記者¹の指導下で、学生同士が自由にお互いの作文を批評し合っています。意見交換の場で相手を意識したコミュニケーション環境に身を置くことで、他人の意見を受容する力、自分の意見を発信する力が身に付きます。

どのような作文活動を行っているのか

1、テーマ型作文

講師¹から一つテーマが与えられ、そのテーマに沿って 800 字程度の作文を書く

2、インタビュー型作文

自分でインタビューする対象を決め、取材した内容を 800 字程度で作文を書く

📌ここがポイント

- テーマ型作文は、想像力を働かせて作文を書くことで創造力が磨かれ、自分の考えを周囲に伝えるための力が身につく。
- インタビュー型作文は、インタビューを介して様々な人々と接するため、コミュニケーション力が高まるだけでなく、相手から聞き出す力、相手の話を整理し、発信する力も付く。

^{くまもとしんいち} 1 講師：隈元信一

元朝日新聞論説委員・編集委員、元韓国高麗大学校客員副教授。

ラジオやテレビなどのメディア・ジャーナリズムが専門で、日本を含むアジア文化についても 40 年程取材。

複数の大学で学生の指導に当たり、教え子が多数マスコミにいる。

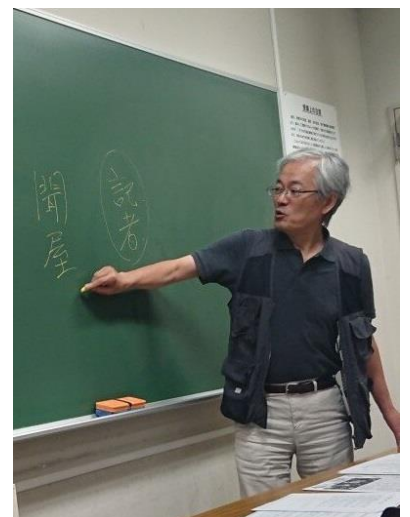
著書

『永六輔——時代を旅した言葉の職人』（平凡社）

『放送十五講』（学文社）

『原発とメディア 2——3.11 責任のありか』（朝日新聞出版社）

『歴史は生きている——東アジアの近現代がわかる 10 のテーマ』（朝日新聞出版）など。



3、 特別活動・友人関係

ジャーナリズム指導室では、普段の活動のほかに月一回程度の特別活動を行っています。

他大学の学生や、上の世代と交流することが出来ます。

自由に使える時間が多い学生である今こそ、見識を広げるチャンスです。

昨年度の特別活動

特別講師による授業（講師；ラジオ沖縄社長、MBS 編成局番組アドバイザー）、NHK 技研公開、夏合宿（札幌、アイヌ学習。札幌大学の学生と交流）、メディア・フェス、春合宿（軽井沢）、立教大学への訪問

📌ここがポイント

ジャーナリズム指導室に所属しているからこそ、普段体験できない活動や、通常では話を伺えない人と出会える。

また、我々ジャーナリズム指導室は、20 人強の小さな集団なので、お互いに信頼しあえる親密な関係を築いています。昨年度は、BBQ、花火、忘年会、追いコン、誕生日会と様々なイベントを楽しみました。

それでいて、真面目な学生が多く所属しています。留学が決まった人は 5 人、GSP を取っている人や EU 研修を経験した人もいます。

また、マスコミをはじめとした多くの業界に OB を輩出しています。

OB の就職先

NHK、共同通信社、朝日新聞、時事通信社、日本航空、三井住友信託銀行、三井住友海上、ヤマハ発動機、ジョンソン・エンド・ジョンソン、アビームコンサルティング株式会社、大日本印刷株式会社など

📌ここがポイント

ジャーナリズム指導室の学生は、活動以外でも仲が良い。それでいて、みんな真面目なので、互いに高め合える関係。就職や学校生活の相談ができる OB や先輩も大勢いる。

